

小林市立病院経営強化プラン2024-2027 点検・評価票

評価レベル S：予定以上の成果をあげた A：予定どおりの成果をあげた B：進行中・及ばない C：遅れている・はるかに及ばない

■医療機能や医療の質、連携の強化等にかかる数値目標【第4章.1.(4)】

No	項目	単位	R4（実績）	R6（計画）	R6総合（実績）	年度末見込み	達成率	評価	備考
医療機能									
1	新入院患者数	人/月	162	150	170	160	113%	A	
2	救急車受入件数	件/年	844	850	916	900	108%	S	
3	救急車受入件数のうち入院患者数	人/年	491	493	497	500	101%	A	
4	救急車受入件数に対する入院率	%	58%	58%	54%	58%	94%	B	
5	手術件数	件/年	522	530	545	530	103%	A	
6	全身麻酔手術数	件/年	470	480	461	460	96%	B	
医療の質									
7	在宅復帰率	%	-	-	-	-	-	-	
8	在宅復帰率：急性期一般病棟入院料1	%	92%	92%	91%	92%	98%	B	基準はクリア
9	在宅復帰率：地域包括ケア病棟入院料2	%	94%	94%	88%	94%	94%	B	基準はクリア
10	平均在院日数	日	-	-	-	-	-	-	
11	平均在院日数：急性期一般病棟入院料1	日	12	12.0	13	12	92%	B	
12	平均在院日数：地域包括ケア病棟入院料2	日	21	45.0	25	25	180%	S	
13	平均在院日数：回復期リハビリテーション病棟入院料3	日	53	-	-	-	-	-	
14	訪問看護ステーションの立ち上げ	-	-	○	○	○	○	A	
連携の強化等									
15	紹介率	%	44.9%	50.0%	68.7%	65.0%	137%	S	
16	逆紹介率	%	72.5%	72.5%	117.7%	110.0%	162%	S	

■経営指標に係る数値目標【第4章.6.(1)】

No	項目	単位	R4（実績）	R6（計画）	R6総合（実績）	年度末見込み	達成率	評価	備考
収支改善									
17	経常収支比率	%	102%	97%	94%	92%	97%	B	
18	医業収支比率	%	87%	85%	80%	81%	94%	B	
19	修正医業収支比率	%	83%	81%	78%	77%	97%	B	
収入確保の視点									
20	病床数（感染症病床4床含む）	床	147	147	147	147	100%	A	
21	病床数：急性期一般病棟入院料1	床	100	100	100	100	100%	A	
22	病床数：地域包括ケア病棟入院料2	床	26	47	47	47	100%	A	
23	病床数：回復期リハビリテーション病棟入院料3	床	21	-	0	0	-	A	
24	平均入院患者数	人/日	92.2	88.0	87	88	99%	B	86.9
25	平均入院患者数：急性期一般病棟入院料1	人/日	61.4	58.0	59	56	102%	A	58.1
26	平均入院患者数：地域包括ケア病棟入院料2	人/日	15.8	30.0	29	32	97%	B	28.83
27	平均入院患者数：回復期リハビリテーション病棟入院料3	人/日	15.1	-	-	-	-	-	
28	病床稼働率	%	63%	60%	64.7%	62%	108%	A	
29	病床稼働率：急性期一般病棟入院料1	%	61%	58%	63.1%	60%	109%	A	
30	病床稼働率：地域包括ケア病棟入院料2	%	61%	64%	63.7%	68%	100%	B	
31	病床稼働率：回復期リハビリテーション病棟入院料3	%	72%	-	-	-	-	-	
32	入院平均単価	円/人/日	47,553	48,089	48,425	48,500	101%	A	
33	入院平均単価：急性期一般病棟入院料1	円/人/日	56,085	56,100	61,166	56,600	109%	A	
34	入院平均単価：地域包括ケア病棟入院料2	円/人/日	32,580	32,600	33,802	32,706	104%	A	
35	入院平均単価：回復期リハビリテーション病棟入院料3	円/人/日	28,813	-	-	-	-	-	
36	外来稼働日数	日/年	244	243	243	243	100%	A	
37	平均外来患者数	人/日	123.7	125.0	114.29	120	91%	B	
38	平均外来単価	円/人/日	16,011	16,000	15,930	16,000	100%	B	
39	在宅平均患者数	件/日	-	1.5	1.7	1.5	115%	A	
40	平均在宅患者数：訪問診療	件/月	-	10	1.6	0.5	16%	C	
41	平均在宅患者数：訪問看護	件/月	-	20	52.8	60	264%	S	
42	在宅平均単価	円/人/日	-	7,333	9,351	9,000	128%	A	
43	在宅平均単価：訪問診療	円/人/日	-	10,000	8,880	8,880	89%	C	
44	在宅平均単価：訪問看護	円/人/日	-	6,000	9,351	9,000	155%	S	
経費削減の視点									
45	対医業収益給与比率	%	70%	72%	79%	78%	92%	B	
46	対医業収益材料費率	%	23%	23%	22%	21%	108%	A	
連携の強化等									
47	（参考）常勤医師数	人	12	12	13	12	108%	A	
48	内科医師増加数	人	-	-	0	0	0%	C	
49	薬剤師増加数	人	-	1	3	1	300%	S	

R6	総合
----	----

【R6 詳細】

■医療機能や医療の質、連携の強化等にかかる数値目標【第4章.1.(4)】

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
1	新入院患者数	人/月	162	150	170.00	160.00	113%	A
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
地域医療支援病院の責務を果たすため、二次医療（精密検査・手術等）に特化した診療を行っている。一般外来を制限（紹介診療を基本）して診療を行っているため、救急患者や他院からの紹介等による患者確保に取り組んでいる。令和6年度における新入院患者数は計画を月あたり20人上回る170人であった。					新入院患者数については、目標値を若干上回る数値で推移した。次年度においても地域医療支援病院の責務を果たしながら、新入院患者数の目標達成に取り組んでいく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
2	救急車受入件数	件/年	844	850	916.00	900.00	108%	S
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
救急科・総合診療科を中心に、緊急度の高い患者の受け入れを積極的に行っている。また、当該地域における限られた医療資源を有効活用するため、当院の常勤救急医や救急に従事する看護師等と管内の救急隊との症例検討会等を通じて、より重症症例を当院で受け入れる体制をとりながら救急患者の受け入れを行うことができた。					引き続き、管内救急隊と連携しながら当院で受け入れ可能な救急患者を積極的に受け入れていく。 また、ドクターヘリが出勤不可となった場合などは、西諸広域の車両を活用したドクターカーの運用を行っており、引き続き、管内の救急医療体制の強化と救急患者の確保に努める。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
5	手術件数	件/年	522	530	545.00	530.00	103%	A
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
手術においては、腹腔鏡を用いた手術を積極的に行っている。手術件数についても目標値をわずかに超える件数で推移した。手術件数545件の診療科毎の内訳は、外科が235件、整形外科が151件、泌尿器科が159件であった。					手術件数が入院患者の増減に大きく影響するため、件数に注視しながら目標値を達成できるよう引き続き取り組んでいく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
6	全身麻酔手術数	件/年	470	480	461.00	460.00	0.96	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度における全身麻酔手術数は461件で、目標値をわずかに下回った。					手術の質に関わる部分であるが、手術件数と同様に目標値を達成できるよう引き続き取り組んでいく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
8	在宅復帰率：急性期一般病棟入院料1	%	92%	92%	91%	92%	98%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
一般病棟の在宅復帰率においては、地域包括ケア病棟の活用や令和6年7月に開設した訪問看護ステーションを活用しながら在宅復帰率の向上に努めることができた。令和6年度上半期における在宅復帰率については91%で概ね目標を達成した。					現状の運用を継続しながら、目標達成に向け引き続き取り組んでいく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
9	在宅復帰率：地域包括ケア病棟入院料2	%	94%	94%	88%	94%	94%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
地域包括ケア病棟の在宅復帰率については、急性期を経た患者へのリハビリテーションを積極的に行い、入院初期からメディカルソーシャルワーカーが介入し、在宅復帰に向け関係職種と連携して取り組むことができた。令和6年度における在宅復帰率については88%で、わずかに目標を下回っているものの施設基準はクリアした。					現状の運用を継続しながら、目標達成に向け引き続き取り組んでいく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
11	平均在院日数：急性期一般病棟入院料1	日	12	12.0	13.00	12.00	92%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
急性期一般入院料の平均在院日数については、令和6年度が13日で、目標値をわずかに下回っているものの施設基準はクリアした。					急性期一般病棟においては、これまでの運用のとおり、検査や手術を行いながら早期在宅復帰に向けて取り組むとともに、地域包括ケア病棟への転棟を行いながら治療継続を行い在宅復帰に向けて治療を継続する流れを今後も継続していく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
12	平均在院日数：地域包括ケア病棟入院料2	日	21	45.0	25.00	25.00	180%	S
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
地域包括ケア病棟入院料の平均在院日数については、令和6年度が25日で目標値を大きく上回っている。地域包括ケア病棟の平均在院日数が短くなっている要因については、当該病棟の入院患者において、医師や看護師、リハビリスタッフや管理栄養士等との連携により比較的早期に患者が軽快になり在宅へ帰することができている他、救急患者の比較的軽症な患者の経過観察、レスパイト入院により在宅復帰率が短くなっているものである。					現状の運用を継続しながら、引き続き取り組んでいく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
14	訪問看護ステーションの立ち上げ	-	-	○	○	○	○	A
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
経営強化プランでの計画どおり、令和6年7月1日に当院敷地内に「小林市立病院訪問看護ステーション」を新規開設した。					訪問看護事業を充実させながら、終末期の患者や家族が在宅で診療を行いたいという希望に応えられるよう努力すると共に、対象患者の確保にも努めていく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
15	紹介率	%	45%	50.0%	69%	65%	137%	S
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度紹介率は、69%で目標をクリアした。 (参考) 地域医療支援病院における紹介率の基準：50%以上					一次医療を提供している医療機関からの紹介については、検査や手術及び入院に繋がることから、医師会とも連携して紹介率の向上に向けて取り組んでいく。			

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
16	逆紹介率	%	73%	72.5%	117.7%	110%	162%	S
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の逆紹介率は、117.7%で目標をクリアした。 (参考) 地域医療支援病院における逆紹介率の基準：70%以上					紹介された患者が、軽快となった時点で紹介元の医療機関へ逆紹介を行っていく。また、直来の患者や当院での加療が不要となった患者を管内の医療機関へ逆紹介を行っていく。			

■経営指標に係る数値目標【第4章.6.(1)】

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
17	経常収支比率	%	102%	97%	94%	92%	97%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の経常収支比率は、94%で目標を下回った。					入院患者数の増を目標に、増収となるよう取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
18	医業収支比率	%	87%	85%	80%	81%	94%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の医業収支比率は、80%で目標を下回った。					入院患者数の増を目標に、増収となるよう取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
19	修正医業収支比率	%	83%	81%	78%	77%	97%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の修正医業収支比率は、78%で目標を下回った。					入院患者数の増を目標に、増収となるよう取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
22	病床数：地域包括ケア病棟入院料2	床	26	47	47.00	47.00	100%	A
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
計画では、令和6年度に回復期リハビリテーション病棟を地域包括ケア病棟に変更をする予定であったが、実施時期を前倒しし、令6年3月1日に病棟の変更を既に実施済みである。					現状の運用を継続しながら、目標達成に向け引き続き取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
24	平均入院患者数	人/日	92.2	88.0	87.00	88.00	99%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の平均入院患者数は87人/日で、目標をわずかに下回った。 (内訳) 急性期一般病棟 : 58.8人 (59人) 地域包括ケア病棟 : 28.8人 (29人)					平均入院患者数が収益に大きく影響するため、各診療科において入院患者の受け入れを積極的に行いながら目標達成に向けて取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
28	病床稼働率	%	63%	60%	65%	62%	108%	A
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の病床稼働率は65%で、わずかに目標を上回った。					平均入院患者数の増を目標とするとともに、病床の稼働率向上に取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
32	入院平均単価	円/人/日	47,553	48,089	48,425.00	48,500.00	1.01	A
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
診療報酬改定に伴い、算定できる施設基準においては届出を行いながら、より質の高い医療を提供できるよう取り組んだ。					現状の体制を維持し、手術や検査を中心とした医療の提供により入院患者や入院単価の増を目指していく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
37	平均外来患者数	人/日	123.7	125.0	114.29	120.00	91%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の一日平均外来患者数は115人（114.29人）で目標値を10人下回った。					一次医療と二次医療の役割分担を行っているなかで、初診の患者を制限しているため外来患者数を大幅に増やすことは難しいが、紹介患者等を積極的に受け入れ、引き続き目標を達成するよう取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
38	平均外来単価	円/人/日	16,011	16,000	15,930	16,000	1.00	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
平均外来単価については、減少傾向にある。現状では、紹介診療を中心に行っており、外来の患者の減少理由については、コロナ感染症の分類が2類から5類に見直しをされたことによるものと分析している。					現状を維持しながら、外来患者数の目標値を達成するためには、内科医（総合診療医を含む。）等の確保が必須であり、引き続き、医師確保についても県や関連大学等に医師招聘について働きかけを行っていく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
40	平均在宅患者数：訪問診療	件/月	-	10	1.60	2.00	16%	C
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度上半期における対象患者は1.6人/月で目標値を下回った。 要因としては、内科医の確保ができず、訪問診療や往診に対応する常勤医師の配置ができなかったことや対象患者が少なかったことが要因とされる。 ※訪問看護ステーションの開設：令和6年7月1日					内科医が不在のため、現状では外科医がその一端を担っているが、救急科・総合診療科にも協力を得ながら、往診や訪問診療の体制強化を図っていく。また、当院の入院患者から対象となる患者をピックアップして患者増に繋げていく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
41	平均在宅患者数：訪問看護	件/月	-	20	52.80	60.00	264%	S
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の月当たりの訪問看護件数は平均52.8件で目標値を上回った。 ※訪問看護ステーションの開設：令和6年7月1日					当面の訪問看護件数の目標の100件/月となるように取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
43	在宅平均単価：訪問診療	円/人/日	-	10,000	8,880	8,880	0.89	C
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
訪問診療や往診の単価は、診療報酬で定められており、現状の診療単価で推移する見込みである。緊急の往診には加算（325点）も付くため、患者のニーズに応じて対応している。					内科医が不在のため、現状では外科医がその一端を担っているが、救急科・総合診療科にも協力を得ながら、往診や訪問診療の体制強化を図っていく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
44	在宅平均単価：訪問看護	円/人/日	-	6,000	9,351.00	9,000.00	155%	S
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
訪問看護の平均単価については、緊急訪問などの件数が想定より多く、平均単価が計画を上回る結果となった。					今後においてもサービスを受ける患者への積極的支援を行えるよう体制を拡充する。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
45	対医業収益給与比率	%	70%	72%	79%	78%	92%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の医業収支比率は、79%で目標を下回っている。今年度は、給与費の増も加わり、非常に厳しい状況となった。					今後の給与費の増も見込まれるため、引き続き入院患者数の増を目標に捉え、収益の増に取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
46	対医業収益材料費率	%	23%	23%	22%	21%	98%	A
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の医業収支比率は、22%で目標値をわずかにクリアした。					引き続き、診療材料を適正な価格で購入するようMRPベンチマークを活用し、メーカーとの価格交渉等しながら、適正かつ効率的な経費削減に取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R6 (計画)	R6総合 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
49	薬剤師増加数	人	-	1	3.00	1.00	3.00	S
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の採用試験（令和7年4月1日採用）において1名を確保した。 薬剤師は、令和6年度末現在で10名在職中である。（内1名は宮崎大学医学部附属病院からの在籍出向職員である。）					今後の方針としては、現在の薬剤師10名を維持しながら、院内の薬剤業務のシェアを広げ、医師の業務負担軽減や入院患者への薬事指導など資格を最大限活かしながら医療の質の向上に取り組んでいく。			